

○ 一般質疑

【答弁のポイント】以下の質問に対し答弁

- 武井 俊輔君(自民)
- 営農型太陽光発電導入促進の状況及び課題
- 金子 恵美君(立民)
- 国産材の安定供給体制の確立に向けた取組及びウッドショックに伴う山元立木価格の状況

本日の会議に付した案件

- 政府参考人出頭要求に関する件
- 参考人出頭要求に関する件
- 農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律案(内閣提出第五五号)
- 農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第五六号)
- 農林水産関係の基本施策に関する件

○ 平口委員長 これより会議を開きます。

農林水産関係の基本施策に関する件について調査を進めます。

(略)

○ 武井委員

その意味では、我が国も、輸出を農水省としても今しっかりと取り組んでいるところでありまして、成果もそれなりに出てきているわけですが、例えば、今後、そういったような問題にも、燃料はどういう燃料を使っているのか、化石燃料を使っていることが障害が起



質問する武井俊輔議員(自民)

ることあり得るのではないかというふうにも思うところがございます。抜本的な、在り方というものをやはり長期的に考えていく必要があるだろうというふうに思います。

その視点で二つ御質問したいと思うんですが、一つは、いわゆる営農型太陽光発電でございます。今、少し、田んぼとか水田なんかでも太陽光のパネルがあつたりということもあるんですけども、実際に現場で話を聞いてみると、やはり農業委員会とか地元の理解、非常にいろいろ課題が多いということございまして、これは平成二十五年からスタートをしまして、直近の

資料が令和元年までしかないんですけども、二千六百件、全国です。ですから、そういう意味では、やはり当初言われていた、予想していたものに比べると、まだまだ見越していたほどにはないのかなというふうにも思うわけでありまして。その意味で、やはりこの燃油の問題を考えますと、特に私も宮崎などは非常に太陽光など適しているわけでありまして、そういう意味では、農業と太陽光というものをより親和性を高めていって、化石燃料から脱却していくということが必要ではないかというふうに思いますが、この促進の状況、また課題についてお伺いをしたいと思います。

○ 宮崎大臣政務官 お答えをいたします。

営農型太陽光発電につきましては、農業生産と再生可能エネルギーの導入を両立する有用な取組でございます。発電設備のための農地転用許可の実績につきましては、武井先生が今触れていただきましたように、調査を開始いたしました平成二十五年度から令和元年度までには、全国で二千六百五十三件の許可が行われたところでございます。

営農型太陽光発電の更なる普及に向けましては、地域ごとの発電設備下における栽培体



でございますとか、取組事例や支援制度の周知などが必要というふうに考えておるところでございます。

このため、農林水産省といたしましては、発電設備下における地域ごとの最適な栽培体系の検討などを行うほか、営農型太陽光発電取組支援ガイドブックを作成をさせていただきます。取組事例でございますか必要な手続、支援制度、こういったものを紹介するとともに、営農型太陽光発電の事業化を目指す農業者の皆さん方に対する相談対応をしっかりと行うこと、こういったことなどを通じて、営農型太陽光発電の導入を推進をさせていただきます。

今後とも、優良農地、この確保は非常に大切なことでございます。これをやりながら、地域活性化に資する、こういう形で営農型太陽光発電の導入を進めていきたいと考えております。

(略)

○ 金子(恵)委員

時間が限られておりますので、次の質問に入らせていただきます。

先ほどもお話があったんですが、ウッドショックにいかに対応してきたかというのと、これからはウッドショックがまた続く可能性があるという世界情勢の中でありますけれども、私は、基本としては、やはり国産材の安定供給をしっかりとやっていくということに尽きるというふうに思っています。

少し質問を飛ばさせていただきますけれども、改めて、国産材の安定供給体制の確立に向けた取組を今後どのようにやっていくかということと、それと、基本、実はとても重要なところというのは、例

えば、ウッドショックにおいて国産材、素材等の価格は上昇しました、でも、これが山元立木の価格にしっかりと反映されているのかというところ。そこにきちんと反映されない、結局は、切って、そしてその後ちゃんと再造林ができるのか、そういう問題にもつながってきってしまう。



現段階では、山元立木価格というのは、大変低いまま横ばいになってきています。そして、それが結局、再造林を賄うような収入になっていないということも問題になっている。ただ単に全体の、輸入材の製品の価格が高騰した、そして国産材の価格も高騰してしまった、そうしたら、どういふふうには実際には現場に影響があるのか、ここをしっかりと見ていかななくてはいけないというふうに思うんです。

いづれにしても、国産材をとにかく安定的に供給する仕組みの中では、川上から川下までしっかりと連携を取っていくということだと思えますけれども、二つ今質問させていただきました。安定供給の部分、そして、山元立木価格、今回の価格上昇、これはどういふふうになっているんでしょうか。教えてください。

○宮崎大臣政務官 私の方から、山元の立木価格の状況についてお答えをさせていただきますと思います。

山元立木価格につきましては、一般社団法人の日本不動産研究所が、例年秋ぐらいに春時点の価格を公表しておりまして、最新の値につきましては、いわゆる先生がおっしゃったウッドショックによる影響が顕著になる前の、昨年の三月の時点の値でございますので、素材でございますとか製材品の価格上昇が反映されているかどうかというところは、ちょっと分析が困難ということでございます。

ただ、立木価格につきましては、昨年度、関係者でブロック単位に需給の連絡調整会議というのを開かせていただいておりますけれども、その場におきましては、現場のお声としては、確かに、立木の単価は上昇しているという声もございましたけれども、その一方で、運材費等のコストが高くなっているということもあって、値上げの実感は強く湧いてこない、そういったいろいろな声があったということでございます。



(以下略)